

# 令和7年度 自己評価結果公表シート

[ 片 貝 小 学 校 ]

## 1 学校の教育目標

豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、何にでもチャレンジする

健やかな片貝っ子の育成

～やりがいのある楽しい学校を目指して～

### 【目指す子ども像】

～仲間と共に学び合う健やかな「かたかい」の子ども～

「か」 考えて、よく学ぶ子ども（自ら学ぶ意欲）

「た」 助け合い、仲よくできる子ども（豊かな心）

「か」 体を鍛え、よく遊ぶ子ども（健康な体）

「い」 いつも、あいさつ、返事、そうじがきちんとできる子ども（規則正しい態度）

## 2 本年度の重点目標・特色ある取り組み

- 1 充実感・満足感を味わわせ、魅力ある学校生活を創造する。
- 2 基礎・基本の定着を図るとともに、「自ら学び、思考し、表現する力」の育成を図る。
- 3 健康・安全教育の充実を図る。
- 4 家庭・地域と連携し、信頼される学校づくりを推進する。
- 5 研修活動の充実に努める。
- 6 「不祥事根絶」「働き方改革」を常に意識し、実践に繋げる。

### 3 具体的な評価項目の取組・達成状況

評価項目		結果	考察
目標1 豊かな人間関係・基本的な生活習慣	①学校生活を楽しく過ごすことができたか。	A	職員の「児童は楽しく学校生活を送っている」について、肯定的回答が100%であった。同内容の項目について児童は94%、保護者は93%が肯定的回答であった。各学級の経営が充実していることや、運動会やマラソン大会・おもちつき等の学校行事や各学年の校外学習等、児童にとって魅力的な行事が展開されていることで、本項目について概ね達成できていると考える。
	②いじめがなく、友だちと助け合って生活しているか。	A	職員の「児童同士の友達関係は良好である」「学校はいじめのない集団づくりに取り組んでいる」について、肯定的回答はともに100%であった。児童・保護者のいじめに関する項目の肯定的回答は、児童で96%、保護者で95%であり、本校がいじめのない取り組みが評価されていると考える。主なものとしては、定期的なアンケートの実施、教育相談週間の活用が挙げられるが、今年度、スクールカウンセラーによる全児童対象とした面談の実施も功を奏していると捉えている。ただし、友人関係については、日々の生活の中で変わっていくことがあるので、担任を中心に学校全体で引き続き注意深く見ていきたい。
	③基本的な生活習慣は、身に付いているか。	B	「あいさつ」について、職員は100%が肯定的回答であるが、児童は93%、保護者が77%と開きがあることがわかる。児童会が中心となってあいさつ運動や、「あいさつ名人」を選ぶなどの全校を挙げての取り組みで、校内でのあいさつはよくなっていると捉えているが、学校外（家庭や地域等）では十分ではないことが伺える。引き続き、校内外関わらず、しっかりとあいさつのできる児童の育成について取り組みを充実させていきたい。

評価項目		結果	考察
目標2 学力の定着	①授業はわかりやすく、学習したことを理解することができたか。	A	全職員がわかりやすい授業の展開に努めていることが、児童の「先生の授業はわかりやすい」の肯定的回答が96%につながっており、授業の充実が図られていると捉えている。本校としては引き続き、「わかる授業」「楽しい授業」の工夫を進めていきたい。一方で、学習内容の定着については職員が81%、児童が89%と数値にばらつきが見られた。パワーアップテスト（月1回の国語・算数のテスト）を中心に、学習内容のより確かな定着を意識した取り組みをさらに工夫・強化していきたい。

・向上	②教師は一人一人に目を配り、わかりやすい授業を心がけているか。	A	授業中の一人ひとりに対する支援について、職員の肯定的回答が100%に対し、児童の肯定的回答が96%であるので概ね達成できていると捉えている。引き続き、一人ひとりに目を配り、個に応じた支援・指導を心がけていきたい。
	③授業において、学習のルールが身に付いているか。	A	授業中の発表の仕方や話の聞き方について、職員は87%の肯定的回答で、児童は94%が肯定回答をしている。全体的に落ち着いた学習環境が整っており、学習ルールの徹底が図られていると捉えている。さらに落ち着いた学習環境や深い学びにつながる、全校統一の学習ルールの設定や周知を通して、学習のルールが学習内容の定着につながる支援を図っていきたい。

目標3 健康・安全 教育	①ルールの遵守や健康・安全に対する意識を持って生活しているか。	A	ルールの遵守について、職員の肯定的回答が100%に対して、児童が97%、保護者が95%と三者で高評価であった。また交通事故や不審者等に対する意識についても、職員が100%に対して、児童が97%、保護者が89%と一定の評価ができると捉えている。児童の安全は最優先事項である。ルールを守り安全に行動できるように、継続して指導していきたい。
	②学校は、学習しやすいように整備されているか。	A	校舎内の整備、校舎外の環境について、職員はともに100%の肯定的回答であり、児童・保護者ともに96%以上の高評価をいただいている。各教室や特別教室等、校内の整理、グラウンドの整備や草刈りなど、職員が日々尽力している内容であるが、今後も児童のよりよい学校生活・学習環境を意識して、取り組みを継続していきたい。

目標4 家庭・地域の連携	①積極的に情報を発信し、家庭や地域との連携を深めているか。	A	学校からの情報発信を尋ねる項目については、職員が100%、保護者が99%の肯定的回答を得ている。今年度9月から活用している「すぐーる」を利用し、学校だよりの発行を増やし、写真の掲載を多くすることで、児童の活動の様子をより積極的に発信することができた。今後も、「すぐーる」のよりよい活用を模索し、スピード感をもって情報発信を行うことで、保護者や地域との連携を深めていきたい。
	②PTA活動は充実しているか。	B	本校のPTA活動については、職員が94%、保護者が96%と高評価であるものの、積極的な参加については、職員が70%、保護者が66%と低い傾向となった。本校の保護者は協力的である一方で、様々な家庭の事情等で参加できない場合もあることを学校としても十分理解した上で、よりよいPTA活動を検討していきたい。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	考 察
A	<p>10項目のうちA評価が8項目、B評価が2項目であった。本年度の重点目標達成に向けて様々な取り組みを検討し、実施してきたが、職員から高評価であること、それに対する児童・保護者の評価も一定の評価をいただいたことから総合評価をAとした。特に、児童の「自分はよいところがあると思う」の項目が、昨年度より約6pt上昇していることから、学校の雰囲気よさ、児童の学校活動の充実が自己肯定感につながっているとうれしく感じている。また、保護者の「学校はお子さんや保護者からの相談に対し、誠意を持って適切に対応している」の項目が昨年度より約8pt上昇していることから、学校に対する信頼を高めていただけていることに感謝を申し上げたいと思う。</p> <p>一方で、肯定的回答の割合が低い項目については学校の課題として、全職員で取り組んでいく必要があると考えている。特に読書に関する項目が、職員の肯定的回答が26%、児童・保護者が70%とかなり低い評価となってしまった。これまでの読書については改善の必要があると捉え、いろいろな取り組みを検討・実施してきたが、まだまだ十分でない。これまでの取り組みも継続しつつ、新たな取り組み・対策についても模索していきたいと考える。</p> <p>総合評価をAとさせていただいたが、否定的回答をしている児童や保護者、そして、いろいろな課題を抱えている児童がいることを常に意識した取り組み・対応を職員一丸となって邁進したい。また、今回のアンケート結果に限らず、常に児童や保護者の声に耳を傾け、互いに考えていく姿勢を示すことで、今後もよりよい学校教育の推進を図っていきたい。</p>

## 5 今後の取り組み

項目	具体的な取組方法
学力の定着 (基礎・基本の定着)	①わかる授業の工夫 ②個に応じた指導の推進 ③電子黒板、タブレット等のICT機器の効果的な活用 ④読書活動の充実・読書環境の整備（家庭への協力等） ⑤スタディタイム・補習授業の充実
魅力のある教育活動	①学校行事等の充実（運動会、マラソン大会） ②各学年の校外学習の充実 ③朝マラソンの実施 ④読書タイムの充実（保護者読書会） ⑤ロング昼休みの実施と外遊びの奨励 ⑥外部人材の活用
仲良く助け合える 友だち関係づくり	①縦割り班活動の継続と実施内容の工夫改善 ②学年にあわせた体験活動の推進 ③一人一人の児童との教育相談週間の充実 ④SC・SSW等による相談活動の充実 ⑤あいさつ運動の奨励 ⑥全教育活動を通しての道徳教育の充実 ⑦幼小中の連携 (生徒指導の充実・長欠者等の対応・特別支援教育等)

## 6 研修活動、働き方改革について

(1) 昨年度、本校の課題でもある学力向上を目指し、算数科における協働的な学びの充実を意識した研究に取り組んできた。今年度は昨年度の研究を引き続き、教科を変えず、児童の思考力・表現力を高める授業実践を意識した研究を行ってきた。その際、千葉県教育委員会から出されている『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用し、授業改善の工夫を模索することとした。主な内容として、理論研修や2学級での授業展開を行い、研究を深めてきた。あわせて、相互授業参観を行い、各職員のよさを吸収する機会を設けたことや若手職員（20代を中心に）を対象とした若手研修を行ったことで、職員の指導力・授業力の向上を図ってきた。次年度も引き続き、職員の指導力向上を図り、児童に還元できるような研究・研修の充実を図っていきたい。

(2) 今年度、学校徴収金の口座振替等、職員の事務作業の削減に努めたこともあり、児童と向き合う時間（職員が児童と遊んだり話をしたりする時間）や、授業に向けた教材研究をする時間が増加していると捉えている。一方で、昨年度から職員も大幅に変わり、若い職員が増えたこともあり、時間外勤務が増加している傾向もある。職員がやりがいをもって勤務している現在の状況はよい状況ととらえつつ、長時間勤務にならないよう、校長のリーダーシップのもと、仕事の効率化、削減、時間を意識した働き方、退勤の呼びかけ等に取り組んでいきたい。